

注3 **大学番号：私089**

[平成28年度設置]

計画の区分：学部設置

注1

認可

学習院大学 国際社会科学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人学習院
平成28年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部総務課

電話番号 03-5992-1191

（夜間） 03-5992-1191

F A X 03-5992-9238

e-mail somu-off@gakushuin.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成28年3月30日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

国際社会科学部

<国際社会科学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	16
6. 留意事項等に対する履行状況等	26
7. その他全般的事項	28

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 学習院

(2) 大学名

学習院大学

(3) 大学の位置

〒171-8588
東京都豊島区目白1丁目5番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ナイトウ マサタケ) 内藤 政武 (平成26年10月1日)		
学長	(イノウエ トシカズ) 井上 寿一 (平成26年4月1日)		
学部長	(スエヒロ アキラ) 末廣 昭 (平成28年4月1日)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。

(例) 平成26年度に報告済の内容 → (26)

平成28年度に報告する内容 → (28)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成25年度開設の4年制の学科の場合(平成28年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際社会科学部 国際社会科学科 学士(社会科学)	4年	200人	- 年次人	800人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	() []	() []	() []	() []	() []	() []	200人 []	() []	1.18倍	
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	2372 []	() []		
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	2266 []	() []		
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	605 []	() []		
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	237 []	() []		
入学定員超過率 B/A							1.18			

- (注) ・ 数字は, 平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[1] 237	[-]	
2年次	/		[] ()	[] ()	[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)	
3年次			[] ()	[] ()	[-] (-)	[-] (-)			
4年次			[-] (-)	[-] (-)					
計			[] ()	[] ()	[] ()	[1] (-)	237		

- (注) ・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成25年度 入学者	人	人	平成25年度	人	人		%
			平成26年度	人	人		
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成26年度 入学者	人	人	平成26年度	人	人		%
			平成27年度	人	人		
			平成28年度	人	人		
平成27年度 入学者	人	人	平成27年度	人	人		%
			平成28年度	人	人		
平成28年度 入学者	237 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0 %
合 計	237 人	0 人					0 %

(注)・ 数字は、平成28年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・ 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・ 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成28年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<国際社会科学部 国際社会科学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	英語科目	100 English Communication I	1前・後	2				1				兼5 担当教員およびカリキュラムの見直しにより配当年次を変更 (28)
		Academic Skills I	1前・後	2			1 3					兼5 兼4 担当教員およびカリキュラムの見直しにより配当年次を変更 (28)
		Presentation I	1前	1			4	1				兼2
		Self-Directed Learning I	1前	1			1 2	1				兼4 兼2 担当教員を変更 (28)
		English Communication II	1後	2				1				兼5 担当教員を変更 (28)
		Academic Skills II	1後	2			1 3					兼5 兼4 担当教員を変更 (28)
		Presentation II	1後	1			4	1				兼2
		Self-Directed Learning II	1後	1			1 2	1				兼4 兼2 担当教員を変更 (28)
	200	Economics in the World	2前	1			2					兼5
		Issues in the World	2前	1			1	1				兼4
100 200	海外研修 I	1前	1			2						
	海外研修 II	1後・2・3前・後	1			2						
100	入門演習 I	1前	2			6	7				兼1	
	入門演習 II	1後	2			6	7				兼1	
100	100 初等情報処理 1	1前	2								兼3 兼1 開講クラス数追加により変更 (28)	
選択必修科目	英語科目	200 Globalization and Business	2後		1		1					兼3
		Peace and Conflict	2後		1		2					兼2
		Advertising and the Media	2後		1		1					兼1
		Social Diversity	2後		1							兼2
		Global Challenges	2後		1			1				兼1
	100 200	100 国際ビジネスのための法学	1前		2			1				
		開発と環境の地理学	1前		2		1					
		社会学	1前		2			1				
		中国経済論	1後		2			1				
		アジア経済論	1後		2		1					
		国際開発論	1前		2			1				
		ミクロ経済学	1前		2		1					
		社会科学のためのデータ分析	1後		2		1					
		マクロ経済学	1後		2			1				
		グローバル経済論	1前		2		1					
		マネジメント論	1後		2			1				
		会計学	1後		2			1				
		マーケティング	1前		2		1					
		簿記	1後		2							兼1
		統計学	1前 1後		2							兼1 カリキュラムの見直しにより変更 (28)
社会科学のための数学	1前		2							兼1		
経営戦略	1前		2							兼1		
世界の宗教文化	1後		2							兼1		
200	200 国際企業法	2前		2			1					
	世界の貧困問題	2後		2		1						
	計量社会学	2前		2			1					
	中国社会の経済分析	2前		2			1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					
選択必修科目	専門科目	200	地域研究の手法	2前		2		1							
		200	アフリカ経済論	2前		2			1						
			国際貿易論	2後		2		1							
			経済成長論	2前		2		1							
			国際金融論	2前		2			1						
			経済政策論	2前		2		1							
			組織行動論	2前		2			1						
			国際会計論	2前		2			1						
			マーケティングと消費者行動	2前		2		1							
			ゲーム理論	2前		2						兼 1			
			Law and Economics	2後		2			1						
			Sustainable Development	2前		2		1							
			Sociology of Population	2後		2			1						
			Modern Chinese Economy	2後		2			1						
			Emerging Asian Economy and Society	2後		2		1							
			Economic Development	2後		2			1						
			International Economics	2前		2		1							
			Productivity and Efficiency Analysis	2後		2		1							
			International Finance: Theory	2後		2			1						
			Japanese Economy	2後		2		1							
			Cross-Cultural Organizational Behavior	2後		2			1						
			Financial Accounting	2後		2			1						
			Marketing Strategy	2後		2		1							
		300	専門科目	300	Corporate Finance and Law	3・4後		2			1				
				300	Case Study Methods	3・4前		2		1					
				300	International Migration	3・4前		2			1				
				300	China's Economic Sustainability and Social Issues	3・4後		2			1				
300	Politics and Economy in Southeast Asia			3・4前		2		1							
300	Education and Economic Development in Africa			3・4後		2			1						
300	Current Economic Issues in the Global Economy			3・4前		2		1							
300	Globalization, Economic Growth and Income Distribution			3・4前		2		1							
300	International Finance: Policy			3・4前		2			1						
300	International Business			3・4後		2		1							
300	International Human Resource Management			3・4前		2			1						
300	Cost Accounting			3・4後		2			1						
300	Marketing Strategy and Consumer Research in International Markets			3・4後		2		1							
300	Asian Business Law			3・4前		2						兼 1			
300	International Comparison of Law and Society			3・4前		2						兼 2			
300	International Trade Law			3・4後		2						兼 1			
300	Game Theory and Negotiation			3・4後		2						兼 1			
400	専門科目	400	専門演習 I	3前		2		6	7						
		400	専門演習 II	3後		2		6	7						
400	卒業論文・卒業演習	4通		4			6	7							

科目区分	英 語 科 目	2 0 0	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考			
					必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
選 択 科 目	英 語 科 目	2 0 0	Theme-Based Discussions : The Economy	2・3前・後		1		1					兼 2			
			Theme-Based Discussions : Law and Society	2・3前・後		1								兼 1		
			Theme-Based Discussions : Business	2・3前・後		1								兼 2		
			Theme-Based Discussions : International Relations	2・3前・後		1			1					兼 1		
			Group Project	2・3前・後		1		1						兼 1		
			Business Communication	2・3前・後		1								兼 2		
			Critical Reading	2・3前・後		1		1								
			Advanced Academic Writing	2・3前・後		1		1								
		Oral Fluency	2・3前・後		1		1	1						兼 1		
		3 0 0	Area Studies	3・4前・後		2				1						
			Independent Studies	4前・後		2			1							
		総 合 基 礎 科 目	1 0 0	哲学	1・2・3・4通		4								兼 3 +	開講クラス数追加により変更 (28)
				美とロゴス	1・2・3・4前		2								兼 9 8	オムニバス形式の教員見直しにより 変更 (28)
				論理学	1・2・3・4通		4									兼 1
西洋倫理学史	1・2・3・4通				4									兼 1	担当教員を変更 (28)	
東アジアと日本の倫理思想	1・2・3・4通				4									兼 1	担当教員を変更 (28)	
現代思想	1・2・3・4通				4									兼 1		
科学の考え方	1・2・3・4通				4									兼 1		
思想史	1・2・3・4通				4									兼 1		
応用倫理学	1・2・3・4通				4									兼 1		
中国の思想と文化	未開講 1・2・3・4通				4									兼 +	担当教員退職 (28)	
言語と文化	1・2・3・4通				4									兼 2 +	開講クラス数追加により変更 (28)	
比較文学	1・2・3・4通				4									兼 1		
芸術学	1・2・3・4通				4									兼 1	授業科目の追加 (28)	
舞台・映像芸術	1・2・3・4通				4									兼 11 +	オムニバス形式の教員見直しにより 変更 (28)	
日本美術史	1・2・3・4通				4									兼 3 +	開講クラス数追加により変更 (28)	
西洋美術史	1・2・3・4通				4									兼 1		
音楽史	1・2・3・4通				4									兼 2		
日本の伝統芸能	1・2・3・4通				4									兼 24 23	オムニバス形式の教員見直しにより 変更 (28)	
法学	1・2・3・4通				4									兼 1		
日本国憲法	1・2・3・4前・後				2									兼 1		
政治学	1・2・3・4通				4									兼 1		
社会学	1・2・3・4通				4									兼 1		
イスラム世界	1・2・3・4通				4									兼 1		
ヨーロッパ世界	1・2・3・4通				4									兼 2	担当教員を変更 (28)	
東アジア世界	1・2・3・4通				4									兼 6 +	オムニバス形式の教員見直しにより 変更 (28)	
南アジア世界	1・2・3・4通				4									兼 1		
神話学講義	2・3・4通				4									兼 1		
歴史に見る日本	1・2・3・4通				4									兼 2		
歴史に見る世界	1・2・3・4通				4									兼 2	担当教員を変更 (28)	
宗教の現在	1・2・3・4通				4									兼 9 6	オムニバス形式の教員見直しにより 変更 (28)	
現代科学	1・2・3・4通				4									兼 28	担当教員を変更 (28)	
数学	1・2・3・4通				4									兼 1		
歴史の中の数学	1・2・3・4通		4									兼 1				
現代社会と数学	未開講 1・2・3・4通		2									兼 +	担当教員の見直しにより辞退 (28)			
社会の中の数学	未開講 1・2・3・4通		2									兼 +	担当教員の見直しにより辞退 (28)			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
選択科目	総合基礎科目	100	時間・空間・物質の科学	1・2・3・4通		4						兼1	
		環境・エネルギーの化学	1・2・3・4通		4							兼1	
		生物学1	1・2・3・4前		2							兼1	
		生物学2	1・2・3・4後		2							兼1	
		心理学	1・2・3・4通		4							兼5	開講クラス数追加により変更 (28)
		スポーツと健康を考える	1・2・3・4通		4							兼3	
		スポーツ科学演習	1・2・3・4通		4							兼1	
		生命論	1・2・3・4通		4							兼2	
		エコロジー (環境問題の基礎)	1・2・3・4前		2							兼1	
		エコロジー (環境問題とエネルギー)	1・2・3・4後		2							兼5	授業科目の追加 (28)
		エコロジー・環境論1	1・2・3・4前		2							兼8	担当教員を変更 (28)
		エコロジー・環境論2	未開講 1・2・3・4通		2							兼7	担当教員退職 (28)
		福祉	1・2・3・4通		4							兼11	オムニバス形式の教員見直しにより変更 (28)
		ボランティア論	1・2・3・4通		4							兼9	
		ジェンダーと文化	1・2・3・4通		4							兼1	
		記録保存と現代	1・2・3・4通		4							兼18	オムニバス形式の教員見直しにより変更 (28)
		記録管理と組織	1・2・3・4後		2							兼4	担当教員を変更 (28)
		生活と法	1・2・3・4前		2							兼1	
		アジアを学ぶ	1・2・3・4前		2							兼2	
		日本語表現法	1・2・3・4前・後		2							兼5	開講クラス数追加により変更 (28)
		キャリア・デザインⅠ	1・2・3・4前・後		2							兼2	授業科目の追加 (28)
		キャリア・デザインⅡ	1・2・3・4前・後		2							兼2	授業科目の追加 (28)
		キャリア・デザインⅢ	1・2・3・4前・後		2							兼2	授業科目の追加 (28)
		インターンシップと仕事経験	1・2・3・4通		2							兼1	授業科目の追加 (28)
		キャリア・デザイン概論	1・2・3・4前・後		2							兼1	授業科目の見直しにより廃止 (28)
		英語で学ぶ日本事情ー文化・社会・科学	1・2・3・4後		2							兼8	オムニバス形式の教員見直しにより変更 (28)
		近代日本と学習院	1・2・3・4通		4							兼2	
		スポーツ・健康科学Ⅰ	1・2・3・4通		2							兼22	担当教員を変更 (28)
		スポーツ・健康科学Ⅲ a	1・2・3・4前・後		1							兼19	担当教員を変更 (28)
		スポーツ・健康科学Ⅲ b	1・2・3・4前・後		1							兼3	
		初等情報処理2	1・2・3・4後		2							兼3	開講クラス数追加により変更 (28)
		ドイツ語B (初級)	1・2・3・4通		2							兼14	開講クラス数追加により変更 (28)
		ドイツ語C (初級)	1・2・3・4通		2							兼19	開講クラス数追加により変更 (28)
		ドイツ語R (中級)	1・2・3・4通		2							兼15	開講クラス数追加により変更 (28)
		ドイツ語C (中級)	1・2・3・4通		2							兼7	開講クラス数追加により変更 (28)
		ドイツ語R (上級)	1・2・3・4通		2							兼1	担当教員を変更 (28)
		ドイツ語C (上級)	1・2・3・4通		2							兼1	
		ドイツ語セミナー	1・2・3・4通		4							兼1	
		フランス語B (初級)	1・2・3・4通		2							兼15	開講クラス数追加により変更 (28)
		フランス語C (初級)	1・2・3・4通		2							兼19	開講クラス数追加により変更 (28)
		フランス語R (中級)	1・2・3・4通		2							兼13	開講クラス数追加により変更 (28)
		フランス語C (中級)	1・2・3・4通		2							兼9	開講クラス数追加により変更 (28)
		フランス語R (上級)	1・2・3・4通		2							兼1	
		フランス語C (上級)	1・2・3・4通		2							兼1	
		フランス語セミナー	1・2・3・4通		4							兼1	
		中国語B (初級)	1・2・3・4通		2							兼14	開講クラス数追加により変更 (28)
		中国語C (初級)	1・2・3・4通		2							兼16	開講クラス数追加により変更 (28)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択科目 総合基礎科目	中国語R (中級)	1・2・3・4通		2							兼 8 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	中国語C (中級)	1・2・3・4通		2							兼 11 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	中国語R (上級)	1・2・3・4通		2							兼 1	担当教員を変更 (28)
	中国語C (上級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	中国語セミナー	1・2・3・4通		4							兼 1	担当教員を変更 (28)
	ロシア語B (初級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	ロシア語C (初級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	ロシア語R (中級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	ロシア語C (中級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	スペイン語B (初級)	1・2・3・4通		2							兼 3 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	スペイン語C (初級)	1・2・3・4通		2							兼 2 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	スペイン語R (中級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	スペイン語C (中級)	1・2・3・4通		2							兼 2 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	イタリア語B (初級)	1・2・3・4通		2							兼 3 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	イタリア語C (初級)	1・2・3・4通		2							兼 3 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	イタリア語R (中級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	イタリア語C (中級)	1・2・3・4通		2							兼 2 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	朝鮮語B (初級)	1・2・3・4通		2							兼 4 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	朝鮮語C (初級)	1・2・3・4通		2							兼 4 ±	開講クラス数追加により変更 (28)
	朝鮮語R (中級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	朝鮮語C (中級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	アラビア語B (初級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	アラビア語C (初級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	アラビア語R (中級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	アラビア語C (中級)	1・2・3・4通		2							兼 1	
	日本語C (中級)	1・2・3・4前・後		1							兼 3	授業科目の追加 (28)
日本語C (上級)	1・2・3・4前・後		1							兼 3 ±	開講クラス数追加により変更 (28)	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成27年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
15	183	0	198	15	189	0	204	
				[0]	[6]	[0]	[6]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	中国の思想と文化	4	1・2・3・4通	一般	選択	授業担当者が急遽退職の為。代替措置なし。
2	現代社会と数学	2	1・2・3・4前	一般	選択	変更予定後の授業担当者が退職の為。代替措置なし。
3	社会の中の数学	2	1・2・3・4後	一般	選択	変更予定後の授業担当者が退職の為。代替措置なし。
4	エコロジー・環境論2	2	1・2・3・4後	一般	選択	授業担当者が急遽退職の為。代替措置なし。

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	キャリア・デザイン概論	2	1・2・3・4前・後	一般	選択	従来の内容をさらに拡充させるための科目体系見直しに伴い廃止した。その後継科目として、「キャリア・デザインⅠ」「キャリア・デザインⅡ」「キャリア・デザインⅢ」を新規に設置した。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「中国の思想と文化」（4単位科目）、「現代社会と数学」、「社会の中の数学」、「エコロジー・環境論2」（以上2単位科目）の平成28年度休講は、いずれも授業担当者の退職に伴うもので、基礎教養科目運営員会で審議の上、決定された。各授業の担当教員として適任者の採用を検討中であるが、基礎教養科目全体として偏りのない科目を開講していることから、休講の影響は軽微であると考えられる。履修可能な基礎教養科目についてはシラバスを通じて学生に周知を行った。（28）</p> <p>「キャリア・デザイン概論」は閉講したが、その内容をさらに拡充させた「キャリア・デザインⅠ」「キャリア・デザインⅡ」「キャリア・デザインⅢ」を新たに設置していることから、閉講の影響はないと考えられる。新規科目の内容についてはシラバスを通じて学生に周知を行った。（28）</p>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.02}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	76,947.46㎡ 77,046.05㎡	3321.53㎡	10,578.03㎡ 10,553.23㎡	90,847.02㎡ 90,920.81㎡	校舎改修に伴う校舎敷 地変更及び女子留学生 寮用途変更に伴う校地 変更 (28)			
	運動場用地	21,716.00㎡	17,588.00㎡	10,263.00㎡	49,567.00㎡				
	小 計	98,663.46㎡ 98,762.05㎡	20,909.53㎡	20,841.03㎡ 20,816.23㎡	140,414.02㎡ 140,487.81㎡				
	そ の 他	55,866.05㎡ 55,628.93㎡	0㎡	8,386.97㎡ 8,411.77㎡	64,253.02㎡ 64,040.70㎡				
	合 計	154,529.51㎡ 154,390.98㎡	20,909.53㎡	29,228.00㎡	204,667.04㎡ 204,528.51㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎改修に伴う校舎面 積の減少 (28)				
	93,719.66㎡ 93,818.75㎡	0㎡	0㎡	93,719.66㎡ 93,818.75㎡					
(3) 教 室 等	講 義 室 92室 93室	演 習 室 40室 39室	実験実習室 104室	情報処理学習施設 12室 (補助職員 一人)	語学学習施設 6室 (補助職員 一人)	大学全体 講義室を演習室に改修 (28)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称 国際社会科学部		室 数 18 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書・学術雑誌・視聴 覚資料数値は平成27年 度統計 (28)	
	国際社会科学部	1,164,488 [362,905] (1,160,666 [363,229]) (1,164,488 [362,905])	25,212 [17,344] (32,718 [24,980]) (25,212 [17,344])	17,430 [16,912] (23,795 [23,274]) (17,430 [16,912])	4,925 (4,677) (4,925)	662 (662)	0 (0)		
	計	1,164,488 [362,905] (1,160,666 [363,229]) (1,164,488 [362,905])	25,212 [17,344] (32,718 [24,980]) (25,212 [17,344])	17,430 [16,912] (23,795 [23,274]) (17,430 [16,912])	4,925 (4,677) (4,925)	662 (662)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積	12,105.84㎡	閱 覧 座 席 数	1,681 1,613	収 納 可 能 冊 数	1,899,325 1,858,550	大学全体 座席及び書架を増設 (28)		
(7) 体 育 館	面 積	2,060.93㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 卓球場、柔剣道場、トレーニングセンター		1,880.16㎡ 1,908.54㎡	大学全体 柔剣道場改修に伴う面 積の減少 (28)			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	400千円	400千円	図書購入費	11,240千円	0千円	0千円	
	共同研究費等	530千円	2,200千円	設備購入費	37,675千円	0千円	0千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,435千円	1,235千円	1,235千円	1,235千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成28年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(28)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	学 習 院 大 学 大 学 院								備 考
既設学部等の名称	修業年限	入 学 員	編入学員	収 容 員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次人	人		倍			
法務研究科法務専攻									
専門職学位課程	3	30	-	110	法務博士 (専門職)	0.57	平成16年度	東京都豊島区 目白一丁目5番1号	
法学研究科法律学専攻									
博士前期課程	2	10	-	10	修士 (法学)	0.00	平成28年度	同上	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (法学)	0.11	昭和61年度	同上	
政治学研究科政治学専攻									
博士前期課程	2	15	-	30	修士 (政治学)	0.36	昭和54年度	同上	
博士後期課程	3	5	-	15	博士 (政治学)	0.06	昭和56年度	同上	
経済学研究科経済学専攻									
博士前期課程	2	10	-	20	修士 (経済学)	0.30	昭和54年度	同上	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (経済学)	0.11	平成2年度	同上	
経営学研究科経営学専攻									
博士前期課程	2	10	-	20	修士 (経営学)	0.65	昭和53年度	同上	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (経営学)	0.22	昭和61年度	同上	
人文科学研究科哲学専攻									
博士前期課程	2	10	-	20	修士 (哲学)	0.50	昭和28年度	同上	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (哲学)	0.22	昭和40年度	同上	
美術史学専攻									
博士前期課程	2	10	-	20	修士 (美術史学)	1.10	平成20年度	同上	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (美術史学)	1.33	平成20年度	同上	
史学専攻									
博士前期課程	2	15	-	30	修士 (史学)	0.76	昭和40年度	同上	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (史学)	1.00	昭和40年度	同上	
日本語日本文学専攻									
博士前期課程	2	20	-	40	修士 (日本語日本文学)	0.80	昭和28年度	同上	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (日本語日本文学)	0.77	昭和40年度	同上	
英語英米文学専攻									

博士前期課程	2	10	-	20	修士 (英語英米文学)	0.45	昭和32年度	同上
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (英語英米文学)	0.55	昭和40年度	同上
ドイツ語ドイツ文学専攻								
博士前期課程	2	5	-	10	修士 (ドイツ語ドイツ文学)	0.40	昭和32年度	同上
博士後期課程	3	2	-	6	博士 (ドイツ語ドイツ文学)	0.33	昭和40年度	同上
フランス文学専攻								
博士前期課程	2	5	-	10	修士 (フランス文学)	0.90	昭和32年度	同上
博士後期課程	3	2	-	6	博士 (フランス文学)	0.00	昭和40年度	同上
心理学専攻								
博士前期課程	2	6	-	12	修士 (心理学)	0.16	昭和55年度	同上
博士後期課程	3	2	-	6	博士 (心理学)	1.16	昭和57年度	同上
臨床心理学専攻								
博士前期課程	2	12	-	24	修士 (臨床心理学)	0.99	平成21年度	同上
博士後期課程	3	3	-	6	博士 (臨床心理学)	1.50	平成27年度	同上
教育学専攻								
博士前期課程	2	20	-	40	修士 (教育学)	0.35	平成27年度	同上
博士後期課程	3	5	-	10	博士 (教育学)	0.50	平成27年度	同上
アーカイブズ学専攻								
博士前期課程	2	15	-	30	修士 (アーカイブズ学)	0.53	平成20年度	同上
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (アーカイブズ学)	0.66	平成20年度	同上
身体表象文化学専攻								
博士前期課程	2	10	-	20	修士 (表象文化学)	0.55	平成20年度	同上
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (表象文化学)	0.66	平成20年度	同上
自然科学研究科物理学専攻								
博士前期課程	2	15	-	30	修士 (理学)	0.99	昭和28年度	同上
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (理学)	0.55	昭和36年度	同上
化学専攻								
博士前期課程	2	15	-	30	修士 (理学)	1.13	昭和28年度	同上
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (理学)	0.22	昭和36年度	同上
数学専攻								
博士前期課程	2	6	-	12	修士 (理学)	0.58	昭和42年度	同上

博士後期課程	3	3	-	9	博士 (理学)	0.22	昭和44年度	同上	
生命科学専攻									
博士前期課程	2	15	-	30	修士 (理学)	0.53	平成20年度	同上	
博士後期課程	3	3	-	9	博士 (理学)	0.33	平成20年度	同上	
大学の名称	学習院大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学員 定員	収定 容員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	開年 設度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
法学部						1.05			
法学科	4	250	-	1,000	学士 (法学)	1.04	昭和39年度	東京都豊島区 目白一丁目5番1号	
政治学科	4	230	-	920	学士 (政治学)	1.06	昭和24年度	同上	
経済学部						1.11			
経済学科	4	250	-	1,000	学士 (経済学)	1.10	昭和27年度	同上	
経営学科	4	250	-	1,000	学士 (経営学)	1.13	昭和49年度	同上	
文学部						1.04			
哲学科	4	95	-	380	学士 (哲学)	1.05	昭和24年度	同上	
史学科	4	85	-	340	学士 (史学)	1.06	昭和36年度	同上	
日本語日本文学科	4	110	-	440	学士 (日本語日本文学)	1.02	昭和32年度	同上	
英語英米文化学科	4	115	-	460	学士 (英語英米文化学)	1.02	昭和32年度	同上	
ドイツ語圏文化学科	4	50	-	200	学士 (ドイツ語圏文化学)	1.06	昭和32年度	同上	
フランス語圏文化学科	4	80	-	320	学士 (フランス語圏文化学)	1.05	昭和32年度	同上	
心理学科	4	90	-	360	学士 (心理学)	1.06	昭和50年度	同上	
教育学科	4	50	-	200	学士 (教育学)	1.07	平成25年度	同上	
理学部						1.06			
物理学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.11	昭和24年度	同上	

化学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.02	昭和24年度	同上	
数学科	4	60	-	240	学士 (理学)	0.97	昭和38年度	同上	
生命科学科	4	50	-	200	学士 (理学)	1.16	平成21年度	同上	
国際社会科学部						1.18			
国際社会科学科	4	200	-	200	学士 (社会科学)	1.18	平成28年度	同上	
大学の名称	学習院女子大学大学院								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入 学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
国際文化交流研究科 国際文化交流専攻 修士課程	2	10	-	20	修士 (国際文化交 流)	0.83	平成16年度	東京都新宿区戸山 三丁目20番1号	
大学の名称	学習院女子大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 員	編入学 員	収 容 員	学位又 は称号	平均入 学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
国際文化交流学部						1.17			
日本文化学科	4	140	3年次 5	570	学士 (日本文化)	1.16	平成10年度	東京都新宿区戸山 三丁目20番1号	
国際コミュニケーション学科	4	170	3年次 5	690	学士 (国際コミュニ ケーション)	1.20	平成10年度	同上	
英語コミュニケーション学科	4	45	-	180	学士 (英語コミュニ ケーション)	1.12	平成18年度	同上	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成28年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

「5 教員組織の状況」は、個人情報を含む内容のため、掲載しておりません。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>「海外研修Ⅱ」については海外研修の事後学習としてディスカッションやグループワークを行う科目となっているが、こうした授業方法が効果的に運営できるクラス規模になるかが不明瞭である。本科目は必修科目で、配当年次が複数年にまたがることから、多くの学生の受講が想定されるのに対し、担当教員は2名のみとなっているため、現在の計画で適正なクラス規模になっているかが懸念される。学年進行に沿ってこの点を十分に検証し、必要に応じてクラス数を増やすなどの対応を取ること。</p>	<p>「海外研修Ⅱ」は、開設年度後期より各学期2クラスずつ開講する。学生の多くは、1年次・2年次の夏季または春季休業中の短期研修後および2年次・3年次後期からの中・長期研修後に、「海外研修Ⅱ」の授業に参加することを想定している。本学部の入学定員は200名で、年間4クラス開講する計画に基づくと、完成年度までの1クラスあたりの平均履修者数は50名と考えられる。1クラス50名程度であれば、ディスカッションやグループワークを実施することが可能であり、現計画で適正なクラス規模を維持できると判断した。</p> <p>なお、履修者数の増加が見込まれる開設2年目以降は、すでに海外研修に参加し、「海外研修Ⅱ」を履修した学生をStudent Assistant (SA) として採用する予定である。ディスカッションやグループワークの補助を通じて、自らの経験を下級生と共有することにより、教育的効果を高め、円滑な授業運営ができるよう対応する。</p>	
<p>設 置 時 (平成28年4月)</p>	<p>一般的な「課題解決型学習」においては、課題解決の手法を学ぶ前提として課題発見のプロセスを学ぶことが重要であると考えられる。本学の「課題解決」に関する説明においては、そのような点に関する言及がないため、本学において取り扱う「課題解決」の趣旨を再度検討し、必要であれば課題発見のプロセスについても取り扱うよう教育課程を修正すること。</p>	<p>課題発見の育成プロセスに関しては、1年次の必修科目である「入門演習Ⅰ」および「入門演習Ⅱ」、3年次以降の選択必修科目である「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」および「卒業論文・卒業演習」の科目を通じて学生を教育する。課題発見力の育成には、次の過程を経るものとする。まず、国際社会の様々な問題の背景にある要因を社会科学の理論を通じて「仮説」の提示という形で課題を発見する能力を養う。そして、関連の社会科学分野における既存の研究を批判的に調べ、まだ解明されていない「課題」はいかなるものかについて発見する能力を養う。それぞれの「課題発見力」の教育方法について、以下のプロセスを用いて実施することとする。</p> <p>第1の課題発見のプロセスでは、社会科学の理論による仮説の設定の重要性を指導する。自分の検討したい社会的な課題に対して、仮説なしにデータ分析のみを実施しても、表面的な相関関係を観察することに留まり、様々な社会問題の背景にある重要な要因を特定できず、間違った課題を発見する可能性が高い。そこで「入門演習Ⅰ」および「入門演習Ⅱ」においては、「課題発見」のプロセスとして、今日の国際社会が直面している課題に対し、仮説の立て方を実践する。そして、仮説に基づき、統計手法を使用して原因と結果の因果関係を発見する手法を学ぶ。この手法は、3年次以降の「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「卒業論文・卒業演習」において、学生が自ら国際社会の課題について分析する際にも活用されていくこととなる。</p>	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
		<p>第2の課題発見のプロセスでは、既存の研究を批判的に読み込み、まだ十分に解明されていない課題について今後明らかにすべき対象を発見する能力を養う。現在の国際的な社会問題に関して、多くの場合は社会科学の手法を使用してその決定要因に関する分析が既に実施されている。一方で、社会科学の理論の進化、あるいは社会の変化に伴う新しい理論的な手法の開発や統計的な分析手法の進化により、過去の分析には欠点や課題が残されている。そこで過去の重要な論文等における分析を批判的に検討することで、どのような分析上の課題が残されているかを学習する能力を養う。このプロセスは、1年次の「入門演習Ⅰ」および「入門演習Ⅱ」においては、その重要性を認識させ、3年次以降の「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」、「卒業論文・卒業演習」においては、実際の既存研究の批判的検討を実施する。</p> <p>このように、すでに課題発見のプロセスは設置計画の段階で十分に練られており、教育課程の修正は必要ないと判断した。</p>	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

7 その他全般的事項

<国際社会科学部 国際社会科学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>エ. 教育課程の編成の考え方及び特色</p> <p>3. 科目区分及び教育課程の編成</p> <p>(2) 教育課程の編成（履修順序の考え方等）</p> <p>⑤その他</p> <p>f-Campus科目（5大学間交流提供科目）は卒業要件には含めない。</p> <p>カ. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件</p> <p>2. 卒業要件及び自由科目の設定</p> <p>「日本語C（上級）」は日本語を母語としない者のみ履修可能とする。</p> <p>コ. 海外研修等の具体的計画</p> <p>3. 指導体制</p> <p>(3) 成績評価及び単位認定方法</p> <p>中長期留学においてのみ、単位認定方法を設定する。</p>	<p>学生の学習の選択肢を広めるため、f-Campus科目（5大学間交流提供科目）も卒業要件に含むこととした。</p> <p>履修可能科目に「日本語C（中級）」を追加した。</p> <p>中長期留学だけでなく、短期留学においても、本学部が認めるプログラムへの参加に限り、研修先大学より送付される成績証明書及び授業内容と履修時間を基準として、8単位を上限に本学で修得した単位として認定する。</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD活動を推進する全学的な組織として、「FD推進委員会」が設置されている。学部学生を対象に、授業評価アンケート実施及びその報告書を作成し、教員の資質向上に資している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>全学組織であるFD推進委員会は、平成27年度には5回開催されており、全学部および外国語教育研究センター、計算機センター、スポーツ・健康科学センター、教職課程の教員が参加し、FDについての検討を行っている。平成28年度以降は、国際社会科学部教員もメンバーとなる。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>全学組織であるFD推進委員会では、授業評価アンケートの内容の検討、実施方法の検討、結果についての検討と報告書の作成、結果公開の方法と範囲、全学FD研究会の企画と実施、全学的なFD活動の企画と推進方策等について審議している。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>(1) 授業評価アンケートの実施 授業評価アンケートは、学部のほぼすべての授業（非常勤講師の授業を含む）に対して、前期と後期の2回行われている。ただし、国際社会科学科は、平成28年度設置のため、FD推進委員会主催の授業評価アンケートはまだ実施していない。</p> <p>(2) 全学的な授業評価アンケートの結果に基づくFD研究会 平成27年度は、前年度の授業評価アンケートの結果に基づいて、優れた授業を行っている教員2名の授業を参観し、また授業の工夫についての研究会を全学的に行った。</p>

(3) 全学FD講演会の実施 平成27年12月に外部の専門家を講師に招き、全学の教職員を対象としたカリキュラム改革に関するFD講演会を実施した。

(4) 授業研究の実施 国際社会科学科では、専任教員を中心に授業研究を行う予定である。また、授業の状況を確認するための意見交換・情報交換を教員間で積極的に行う予定である。

b 実施方法

(1) 授業評価アンケート 学部のほぼすべての授業に対して、前期と後期の学期末に行っている。

(2) 全学的な授業評価アンケートの結果に基づく授業見学・聴講及びFD研究会 平成27年7月に実施した。

(3) 全学FD講演会 平成27年12月に講演会方式で実施した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

(1) 授業評価アンケート 年に2回、学部のほぼすべての授業に対して行っている。

(2) 全学的な授業評価アンケートの結果に基づく授業見学・聴講及びFD研究会 昨年度は教員2名の授業参観を各1回、講演会・討論会を1回行い、それぞれ約30名が参加した。

(3) FD講演会の実施 平成27年12月に実施し、教職員約50名が参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業評価アンケートの結果は、毎年3月にFD推進委員会から全教員宛に結果が送付され、授業改善に活用されている。また、各学部のFD委員が自学部の授業評価アンケートの結果を分析し、報告書にまとめている。報告書は大学ホームページで公開されると共に、学部および大学院の教授会・研究科委員会等で報告・共有されている。FD研究会及びFD研修会については、学部長会議において開催通知及び実施報告がなされ、全学的に事前及び事後周知が行われている。配付資料等についても、共有がなされている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

学部のほぼすべての授業を対象に、前期と後期の2回、それぞれ7月と12月に実施されている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果とその検討結果、および結果を踏まえての改善方策はFD推進委員会によって報告書の形でまとめられ、ウェブ上で公開され、学内外（学生含む）からの閲覧が可能になっている。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成28年度4月に開設し教育を開始した。授業活動・研究活動などは今後継続して展開されるため総合的な評価はできないものの、一般入試の志願者が2,183名だったことから、開設前から一定の社会的評価は受けたと判断している。本学部の専門科目、専任教員等に関しては申請時と同様であり正しく履行されており、順調に開設されたと評価している。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成28年3月24日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開した

③ 認証評価を受ける計画

・平成27年度に認証評価機関（公益財団法人 大学基準協会）の評価を受け、協会が定める大学基準に適合していると認定された。次回の認証評価は平成34年度に受審する予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(2016年 7月 1日)

改正 平成21年4月1日
平成24年4月1日

平成22年4月1日

(設置)

第1条 本学に、学習院大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(定義)

第2条 本学において、ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)とは、本学で提供される授業に関する技量及び教育効果を高めるための組織的かつ継続的な取り組みを行うこと等を通して教育の内容及び方法の改善を図ることをいう。

(目的と任務)

第3条 委員会は、学長の諮問に基づき、全学的立場でFDを推進することを目的とする。

2 委員会は、前項の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項をその任務とする。

- 一 FDの基本方針に関する事項
 - 二 FDに係る情報収集、FDに係る広報、FDに係る講演会及び研修会、その他の全学として行うFD事業の企画及び実施に関する事項
 - 三 各学部、専門職大学院各研究科、スポーツ・健康科学センター、計算機センター、外国語教育研究センター、教職課程及び学芸員課程が行うFDの連絡調整に関する事項
 - 四 FDに係る予算、設備等に関する原案作成に関する事項
 - 五 その他FDに関する重要事項
- 3 委員会で審議したFDの取り組みのうち、各学部、専門職大学院各研究科、スポーツ・健康科学センター、計算機センター、外国語教育研究センター、教職課程及び学芸員課程において共通に行うべきFDの最低限の取り組みについては、学部長会議及び専門職大学院研究科長会議並びに各学部教授会及び専門職大学院各研究科教授会の議を経て実施するものとする。

(構成)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成し、学長が委嘱する。

- 一 学長が指名する副学長1名
- 二 学生センター所長
- 三 学長室部長
- 四 各学部、専門職大学院各研究科、スポーツ・健康科学センター、計算機センター、外国語教育研究センター、教職課程及び学芸員課程委員会から選出された専任教員各1名
- 五 その他学長が指名する教職員

(任期)

第5条 前条第4号及び第5号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項に掲げる委員に、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 委員会に委員長を置き、学長が委員の中から委員長を指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要と認めるとき、委員会の承認を得て委員以外の者の出席を求めその意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第8条 委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が定める。

(改正)

第10条 この規程の改正は、委員会の発議に基づき、学部長会議及び専門職大学院研究科長会議の議を経て、大学協議会の議により、学長が行う。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。